

2025（令和 7）年度

小児看護学実習Ⅱ

実習後授業資料



☆授業までに資料内容を確認し、や（ ）に当てはまる内容を記載しておきましょう。

学籍番号

学生氏名

授業時に返却された事前学習も使います。

実習日誌内容に不足のある人は、会場にて指示されます。昼休みに記入して下さい。

Ⅰ 時間目：小児期にある対象の成長発達における特徴を理解し、 家族を含めた個別看護の実際が説明できる。

【小児看護学とは？】

子どもは、家族の中に誕生し、家族に育まれ成長発達していく。

小児看護に携わる看護者は、子どもを主体的な存在としてとらえるとともに、子どもと家族を
1つの単位としてとらえ、子どもと家族が自らの力で健康を維持し、幸福に生活していくことが
できるように、看護の専門性を発揮して支援していく必要がある。

【小児看護の特徴】

- ① 小児は絶えず成長・発達を続けているため、成長・発達に応じた援助が必要である。
- ② 感染に対する年齢的差や個人差を重視した援助が必要である。
- ③ 抵抗力が弱いため、感染には厳重な注意が必要である。
- ④ 小児は病状の変化が速く、重篤な状態に陥りやすい。特に乳幼児では、不快や苦痛を言葉で的確に表現できないため、注意深く観察し、客観的なデータを収集することが必要である。
- ⑤ 小児は自分で危険から身を守ることができない。そのため、常に安全への配慮をし、観察を整え事故防止に努める必要がある。
- ⑥ 小児にとって環境が重大な影響を及ぼすことを考慮して、その弊害を最小限にする必要がある。
- ⑦ 小児は大人との信頼関係を築く時期である。人格形成の途中にあるため、医療者は言動や態度に十分注意を払う必要がある。
- ⑧ 母と子を1つの単位として捉え、母親（家族）も看護の対象となる。看護への母親（家族）参加の奨励や家族への育児支援が必要である。



小児看護学実習Ⅰの事例と、実習Ⅱでの学びを振り返りながら、小児看護のポイントを整理し、知識として定着させましょう。また、入院が子どもに与える影響や、成長・発達の途上にある子どもだからこそ生じる他科との違いについても考察します。そして最後に、これらの学びを踏まえて、あなた自身の小児看護に対する看護観をまとめましょう。

1. 小児看護学実習Ⅰを含めて、小児の成長発達の特徴を理解する。



小児の発達の特徴は何でしたか。

2. 臨地実習の振り返りができる。

1) 見学実習において関わった子どもについて、その対象や実施した看護（関わり・援助・支援）を振り返りましょう。また、実習を通じて心に残ったことについても整理してみましょう。

2) 小児看護学実習Ⅱの見学実習を振り返り、あなたの課題は何ですか？

2 時間目：健康障害がある小児の健康レベル、発達段階に応じた援助が説明できる。

1. 【小児看護における看護師の役割】

2. 【小児科外来の機能と看護】返却された事前学習からも確認します。

外来における子どもと家族のポイント オープンセサミ④P51～

- ・最近では（ ）や（ ）の問題を潜在的に抱えている家族も増えており、そのような家庭の子どもの早期発見の役割も担っている。
- ・小児における救急外来の看護として、緊急性の判断と状態の観察（ ）、多職種との連携、家族でのケアや事故防止に向けた情報提供などがある。

バイタルサイン測定（検査・処置など）を行う前に…

子どもは経験や体験がないものに対する不安や恐怖を抱くことがあるため、**プレパレーション**（心理的準備）を行うことで、対処できる力を引き出すことができる。子どもの認知能力に合わせて情報提供や模擬体験の方法を工夫する。また、家族もプレパレーションの過程に参加することで、双方にとってよい効果が得られやすい。

【バイタルサインの基礎基本】

- ・バイタルサインの測定では環境を整え、できるだけ泣かせない。

呼吸⇒脈拍⇒体温⇒血圧の順に測定する。

- ・子どもの普段の値と発達に応じた基準値を把握して測定を行う。
- ・乳幼児は嫌がったり同じ体位でじっとしてられないため、気を紛らわせる（ ）の工夫を行うとよい。

【神経系】 iPad33 巻 P90

- ・新生児は脳の発達が未熟なため（ ）反射がみられる。
- ・口腔内に物が触れると舌と唇で吸うことを（ ）反射という。
- ・前に落下させると、手を伸ばして体を支えようとする反射を（ ）反射という。
- ・乳児の頭部を支え、急に下げたり体位を変えたりすると、上肢を広げて抱きつくような動作をすることを（ ）反射という。

3. 検査や処置を受ける子どもと家族への対応ポイント

オープンセサミ④P52

- ・心電図、心エコー、CT、MRI などの検査では、必要に応じて（ ）を使用する。
- ・検査や処置での抑制帯使用や（ ）は、必要最小限にとどめる。
- ・乳児の身長測定では、（ ）を用いる。（ ）を固定版につけ、耳孔と目を結んだ線が測定台と（ ）とする。
- ・採血では、理解できる子どもには事前に説明し協力を得る。

4. 子どもの痛みの受け止め方と表現方法 iPad33 巻 P384

- ・3歳以下の幼児は、その場の状況に影響を受けやすく、また痛みの部位をうまく示すことができない。
- ・4～6歳ごろは（ ）な受け止め方をするが、痛いと感じる部位や程度を示すことができる。
- ・学童期では、痛みを病気と関連づけて受け止め、我慢することもできる。
- ・思春期では、痛みに対する処理方法について考えることができる。
- ・3歳以上には、痛みの評価として（ ）を使用する。



実習を通じて学びが得られていれば幸運です。
もし経験できていない場合には、資料や文献からしっかりと学習を深めておきましょう。

3 時間目：小児及び家族とのコミュニケーションのあり方が説明できる。

小児看護学に必要な知識とはどのようなものがあるのか？考えてみよう。

1. 被虐待児と家族への支援 iPad33 巻 P320～ 家族看護についても考えてみよう。

2. 救急救命処置が必要な子どもと家族への対応 オープンセサミ④P76

3. 災害時の児と家族への看護 オープンセサミ④P84

4. 感染症と児の看護 ④P115 小児がかかりやすい感染症と予防接種の事前学習確認。

5. 医療的ケア児の支援 iPad33 巻 P56～、P356～、P370

医療技術の進歩により、NICUなどに長期間入院した後も、人工呼吸器や胃ろうを使用し、痰の吸引や経管栄養などの医療的ケアを必要とする障害児（医療的ケア児）が増加しています。また、二分脊椎症などの疾患により排泄ケアが必要な子どももいます。こうした医療的ケア児に対して、地域における支援体制の整備が徐々に進みつつあります。

4 時間目：対象、医療スタッフとの関わりの中で自己を振り返り、看護観を育むことができる。

【小児看護学実習Ⅱ目的・目標】※実習の手引き P.8 参照

目的：小児の成長発達を理解し、あらゆる健康レベルにある小児と家族に対して行われる看護実践から、自己の技術を振り返り、看護実践能力を強化する。

目標：

1. 小児期にある対象の成長発達における特徴を理解し、家族を含めた個別看護の実践が説明できる。
2. 健康障害がある小児の健康レベル、発達段階に応じた援助が説明できる。
3. 小児及び家族とのコミュニケーションのあり方が説明できる。
4. 対象、医療スタッフとの関わりの中で自己を振り返り、看護観を育むことができる。

レポートのテーマ【ここに記入】

【レポート内容の注意事項】

☆会場でテーマを聞く。テーマを記載すること。

☆1600 字程度とする。☆正しい原稿用紙の使い方をする。☆手書きの場合黒ボールペン書き。

レポートですので、参考・引用文献が必要です。（引用、参考文献は字数に入りません）

提出期限：履修スケジュール確認⇒【必着】

提出物：①実習後面接授業後レポート
(実習Ⅱの手引き P40 参照)